

発行所
真宗大谷派宗務所
代表者 木越 渉
編集/東本願寺出版(真宗大谷派宗務所出版部)
〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上る
TEL.075-371-9189(東本願寺出版)

購読料 無料
送料 1部1万円1,300円
(1,182円+税10%)※部数により変動
振替口座番号 01000-6-27404
加入者名 東本願寺出版部

東本願寺公式YouTubeにて
さまざまな行事の様子を
公開しています。



東本願寺NEWS

検索

どうぼうしんぶん

同朋新聞

Dōbō Shimbun

10

Vol. 803
October 2024



小松大谷高等学校野球部 甲子園出場

今月の写真

「2024年8月9日付 北國新聞朝刊」

真宗大谷派学校連合会加盟校である小松大谷高等学校(石川県小松市)野球部が第106回全国高等学校野球選手権大会(夏の甲子園大会)に出場。大会前には真宗本廟を参拝。「能登の人たちに心を寄せて頑張る」と意気込みを語った選手たちは、甲子園の舞台で初勝利を挙げ、2回戦でも完封勝利し、ベスト16に進出した。

今月の法話 如是我聞

「あさ目が覚めたら
いのちがあった」

京都教区長浜第14組満立寺
黒田 進(80)

ある日、本山の晨朝法話でのこと。かなりの年齢とお見受けする講師が演台の前に立たれた。開口一番、「あさ目が覚めたらいのちがあった。まっさらな今日のいのち、まっさらな今日の一日」。それからしばし、若い修練^{じゆんれん}生^{せい}たちに願いを託すような恂恂^{じゆんじゆん}としたお話があった。私もしみじみ拝聴させていただいた。

その日の昼食時、事務局の人から「今朝の法話の先生が、10時頃亡くなられました」と連絡が入った。「ええーッ」という声と、どよめきがいばらく止まなかった。

夕事勤行のあとの感話は、この出来事にくさされた。「あの先生のお話はとても印象にのこった」「遺言のようなお話だった」「僕はあの時居眠りをしていて。どうして目をあけて聞かなかったのか、くやまれる」等々。

あれから、どれほどの年月が流れたであろうか。あの日の出来事は、冒頭の言葉とともに、今もあざやかによみがえってくる。修練生だった彼らの胸にも深く刻まれていることであろう。釈尊は自らの入滅をもって最後の説法とされたと伝えられる。あの日の出来事こそまさに臨終^{りんじゆう}説法^{せっぽう}というのであろうと思わずにいられない。

※修練…教法をひろめ、儀式を執行する資格を有する「真宗大谷派教師」となるために必要な研修。教師修練のこと。

CONTENTS

人間といういのちの相

「老い」を堪能する

村瀬 孝生さん



2・3面

4面

通信員リレーレポート

現在を生きる 第252回

縁—お寺の掲示板— 第15回

5面

ひかりを伝えたひと

—七高僧と聖徳太子 第10回

6面

報恩講に
お参りしよう!



この紙面では、さまざまな人とおして、現代社会の抱える課題や人間そのものについて考え、宗祖御遠忌テーマ「今、いのちがあなたを生きている」、慶讃テーマ「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう」の学びを深めていきたいと思ひます。

人間のいのちの相

すがた
連載



「老い」を堪能する

私たちは老病死を避けてとおることはできません。その中でも「老い」は年を重ねるにつれ実感を伴うものです。しかし、それに抗いたいのちもまた私たちです。福岡県で老人福祉施設を運営されている村瀬孝生さんは老いを「新しい始まり」と語られます。老いとおして見えてくる人間の相を村瀬さんのお話から考えます。



インタビュー
村瀬孝生さん

福岡県飯塚市出身。東北福祉大学卒業。1988年、特別養護老人ホーム生活指導員。1996年、第2宅老所よりあい所長、2013年、宅老所よりあい代表。2015年、よりあいの森施設長、2022年退任。現在：よりあい統括所長、社会福祉法人福岡ひかり福祉会理事。著書に「おばあちゃん、ほけた」「看取りケアの作法」「シンクロと自由」「ほけと利他」等がある。

なぜ自宅で暮らすことを支援するのか？

「宅老所よりあい」はユニークな取り組みをされていますが、どのような経緯で生まれたのでしょうか。

「宅老所よりあい」は、34年前にマンションで一人暮らしをしていた92歳の女性の居場所づくりから始まりました。伝照寺というお寺の茶室をお借りして、その方が出掛ける場所をつくったのが宅老所の始まりです。

その後、もっと多くの方が出入りできるようにと、敷地内にあった古い民家を改築して、デイサービスのようなものになりました。最初はみなさんが通ってくる場所でしたが、年々老いが深まり、自宅に一人しておくのは厳しく、どうしても帰せない日が出てきました。そして、

泊まる日がどんどん増え、最終的にはここに暮らす状態になりました。そういう自然なプロセスで「よりあい」の支援モデルができてきたんです。

まずは自宅で暮らすお年寄りを支援する仕組みづくりから始められたわけですね。老後を過ごすなら施設ではなく、自宅の方がいいとおっしゃる方は多いですが、どうしてでしょうか。

一概には言えませんが、老いの特性があると思っていて、急激な環境変化がお年寄りは苦手です。人間って、みんな習慣で生きていますからね。この習慣が固定的、安定的であるからこそ、日常が送れるのですが、同じ一日はありませぬ。例えば、食べる、寝る、排せつする、と

いった人間の生理に基づいた営みは繰り返されます。しかし、繰り返されている中でも、まったく同じことは一つもないですね。その中で、習慣が日々の不安定を支えているんです。ですから、人間はそもそも習慣によって安定的に生きていて、お年を召すと記憶力が落ちていくので、さらにそれが重要になります。

なので、家から施設に移るといのは、これまでつくり上げてきた家での習慣を失い、新しい環境で再び習慣をつくらなければいけない。お年を召していくと、時間や空間の見当がつきづらくなるので、もう一度新しい習慣を自分でつくるのはとても難しい。だから、今まで自分がつくり上げてきた習慣をできるだけ維持したいと思つたんです。施設に入った途端に、認知症が進みましたといった声は、施設入居ではよく起こることです。

僕らが自宅で暮らすことを支援するのは、つくり上げた習慣で生きること支援した方が、急に施設に入るよりいい

老いは「新しい自由をもたらす」

私たちは老いていく現実をなかなか受けとめられません。特にぼける、認知症に対してはその傾向が強いですね。

僕は36年この仕事をしています。昔「痴呆症」と呼ばれていた頃には「ぼける」との現場レベルの使い分けがありました

物差しの見方です。老いるというのは、人間の当たり前の変化なんです。「おぎゃあ」と生まれてきた赤ちゃんは、最初から「お母さん、僕を産んでくれてありがとう」なんて言いません。しゃべりもしないし、寝返りさえうてない。でもその状態を、「機能不全」とは言わないですよ。

それと同じように、お年寄りが一つひとつ機能を失っていくというのは、病気や障害というよりは、人間が当たり前のように姿形を変えていくわけなんです。老いるというのはそういうプロセスです。

した。痴呆症というのは、生活が非常に困難な状態が固定化した状態。いわゆる脳の病変などによって、生活に大きな障害が出てしまう状態を、痴呆症と表現していたんです。その一方でぼけるという言葉は年を取って、自然に膝が悪くな

たり目が見えづらくなったり、耳が聞こえづらくなったり、自然の摂理に導かれて変容していく姿を、自然なことであるという意味合いで使っていました。だから、「ぼけ」というのは自然なものだと僕は受けとめています。それが2004年に「認知症」という言葉にまとめられてしまい、ぼけという言葉を使うことを差し控えている雰囲気がある。しかも今では認知症は脳の病気という捉え方が強くなつてしまいました。

しかし、認知症状というのは、あくまでも症状であつて、病気ではない。認知症状を引き起こす原因疾患が、いわゆるアルツハイマー病など病名が付いているもので、そこから認知症が現れます。では、お年寄りの場合、みんな脳の病気による認知症なのかというと、そんなはずはないんですよ。普通に年を取っただけで、

も症状であつて、病気ではない。認知症状を引き起こす原因疾患が、いわゆるアルツハイマー病など病名が付いているもので、そこから認知症が現れます。では、お年寄りの場合、みんな脳の病気による認知症なのかというと、そんなはずはないんですよ。普通に年を取っただけで、



「よりあい」での食事風景

「老い」から得られるもの

施設で働く新人の職員の方に「介護者にならぬように心掛けてください」とおっしゃったことがあるのですが、介護をどのように考えておられますか。

僕らは労働者としてお年寄りに関わっていますが、どうしても介護する側される側という関係性が固定化してしまっています。でも、どんな状態のお年寄りであつても、24時間365日、要介護者で生きていくわけではなく、僕らが接するのは、トイレや食事など、介助が必要な時だけなんです。それ以外はごく普通の一人の人間として生きている。だから、私たちが

さんは山の質を捉えているんですよ。僕は名前だけで、おばあさんは「緑の深い山」と山そのものを見ている。お年寄りは私たちの固定化してしまった概念ではなく、見たまま、感じたままを言葉にしている。老いるというのは「今」を生きる「人」になつていくんだなということを感じました。

この「今」を生きるというのは、実はすごいことです。なかなか僕らは「今」を生きられないというか、記憶がすっかりしている、過去にとらわれて恨みつらみの中で生きたり、未来への心配ばかりをしてしまつても、老いが深まれば深まるほど、今「今」を老いていくようになるんですね。僕らの概念だと、若い人は何か

が欠けていると見えるわけですが、実はそういう生き方の方が生き生きとして、幸せなのではないかと思えます。

すべての時間を要介護者として接すると、介護されている人は要介護者としてしか生きていけないです。私たちが常に介護する側でいなければならず、人間としての対等性が損なわれてしまつて思つたんです。いかに、今「今」をともに楽しみ、悲しめるか。また、どう生きていくか。ここにおいて対等であるという感覚を職員には持つてもらいたいなと思つています。

老化は正常なことです。それは人間だけじゃなく、生き物すべてに永遠なものではなくて、必ず有限で終わりがくる。しかし、人間だけがそこから乖離して、老化

することを受け入れられない社会になつてきています。老いるという自然の摂理から乖離しているのは、実は社会の方なんです。この乖離を埋めるのが、僕の考える介護の役割だと思つています。この乖離を埋めていくような介護ができるか、それを発信できるか、そうした考え方ができるかというのを考えています。

社会では、介護を効率的に行うことが優先されている気もしますが、その点についてはどう思われますか。

効率化の波は介護現場にも押し寄せてきています。人手不足をデジタル技術で補ったり、「ムリ」「ムダ」「ムラ」をなくそうとしたり、ですね。しかし、ムリ、ムダ、ムラをなくして、効率を上げ、少ない人数で介護するとなると、介護現場は虐待が絶えなくなると思つています。機械やセンサーを使えば、人間以上の精度の高い情報が集まります。しかし結局介護をするのは人ですから、そういう精度の高いセンサーが拾ってきた情報に答えられない。そしてゆとりもなくなります。不完全だからこそのゆとりがある。人間の力には限界があるわけですね。その限界をいかにみんなが認めるかは、とても重要なことだと僕は思っています。限界があるからこそお年寄りが自由でいられる。

それが全部、情報として集められると、その中では寛容性が失われ、人の不完全さを許さない社会になつてしまいます。精度を上げてリスクを減らすのは大事なことです。でも、一人の人間の体の不完全性の中で起こる悲しみも喜びも、共有していく共同体の中で介護をされた方が、お年寄りも、介護する側も楽な

のではないかと思います。

年を重ねるといことは、一つひとつ失うことが増えていますが、そこが終わりではなくて、そこから新しい始まりがある。そこに実は本当の老いの「さ」というのがあるんだなと思つています。

それを僕は餅つきをした時に実感しました。子どもの頃から、餅つきを実家ですさせられていたんです。僕は高校生の時が、餅つきができるピークだと思つていました。しかし、実際は、60歳を過ぎた今の方ができるんです。間違いなく体力も落ちていくし、力もないのに、でも、高校生の時よりも今の方が持続的に餅をつける。それはなぜかという、力を失つたからこそつく知恵と技術を体がちゃんと習得しているからです。それはたぶん、すべてのものとのコミュニケーション力が高まり、自分の体と相談しながらやつていくような力が若い人よりも長けてきたのではないかと感じています。

お年寄りもそれぞれみんな自分の都合の中で、いろんな工夫に満ちた生活をしているはずなんです。弱い体を補充し、強くしていくという発想よりも、弱いからこそ万物と交流できることを老いが証明している、という点に着目していかなければならぬ気がします。それこそ「老いを堪能する」ということだと思つています。

ありがたうございました。失つてもそこから始まり、いろんなものと交流すること、老いの中から発揮される力や豊かさを、あらためて教えていただきました。(了)

通信員リレーレポート

第252回 いまを生きる

歩みだしは偲ぶ場所から



願勝寺の行事(花まつり)でスタッフとして活躍される佐山さん

宮城県の南部に位置する村田町。この地に建つ願勝寺の役員として活動をされている佐山芳照さんにお話を伺った。

曹洞宗の檀信徒が多い地域で、幼少期を過ごされ、自身の実家も曹洞宗であった佐山さんにとって、浄土真宗との出会いは中学校に勤務していた50歳頃、12月下旬に義母が亡くなった時であった。

葬儀の喪主を務めた佐山さんは、年の瀬の忙しい時期に関わる皆様に申し訳ないと思縮して、当時の願勝寺住職にもお詫びの言葉を伝えたという。

住職の返事は「私たちは死ぬ日を選べないんだよ。死ぬ日が良いとか悪いということはないんだよ」というものだった。佐山さんは「この言葉をかけていただいた時、ほっとしました。あの時ほど安心したことはありません」と力のこもった声で続けた。そこから願勝寺との交流が始まり、役員として先輩方とともに寺院の行事を計画するようになる。これまで意識していなかった寺院という場所が楽しい場所に変わっていったという。

東北教区通信員
藤原了



佐山 芳照さん

日本全国のご門徒の方々や各地で開かれている同朋の会を紹介しています。

退職されてからは本山への参拝をはじめとした地域の外での活動も増えたという佐山さん。ある年の本山参拝の法話の中で聞いた「あなたが死んだ人を想うより死んだ人があなたを想っている」という言葉が印象深く残っていると語られた。「それまで私の都合で先祖さまのことをあれこれ心配していたけれど、先祖さまの方が私たちの方を気にかけてくれている、そういう存在なんだよなと納得しました。こんな心安らぐ教えが本当の教えなんだろうなと思いつつ、今を歩んでいるわけです」。

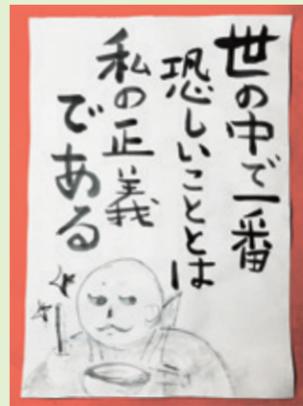
葬儀をきっかけに真宗の教えと出会った佐山さんには、自分のように葬儀をおして教えに出会う人が増えてほしいという想いがあるという。昨今、葬儀の簡素化が進む中で、人と人との想いが尊重され可視化されるような葬儀のあり方が残せないものだろうか。寺院に関わるようになって広がった交流の中で、何かいい方法はないかと模索されているそうだ。一言ひとこと確かめるように話される佐山さんのお姿に、これからの寺院のあり方にかける思いを託されたように感じた。

縁 ねん お寺の掲示板 第15回

お寺の掲示板に込められたさまざまな願いを、今月の言葉と一緒に毎月お届けします。



栄光寺 (北海道教区 第4組)
北海道札幌市東区北42条東1-4-1
住職 佐々木 強



今回この言葉を考えてのは「私が正しいと思うこと」を家族や友人に突き付けた時、それによって相手を追い詰めたという経験があったからです。世界で起こっている戦争はまさに、そこに根っこがあるのでしょうか。掲示板をおしてたくさんの人に見てもらっていますが、私自身に向けた戒めの言葉なのかもしれません。

掲示板に載せる言葉は、佐々木住職ご自身が日々の生活の中で感じたことを載せることが多いという。そしてその言葉の横にはいつも挿絵が添えられている。

30年ほど前にご縁のあったお寺での法務の傍ら、版画家のもとでアシスタントをしていた佐々木住職。2020年、札幌別院の機関紙に挿れる七高僧の絵の制作依頼があったことをきっかけに、本格的に作画に取り組み始めた。「掲示板は挿絵の有無で通行人が立ち止まってくれる割合が全然違いますよ。絵はいろいろな垣根を越えますからね」と笑顔で話してくれた。今ではお寺の中にあるアトリエで、主に仏教画の制作に取り組んでおり、年に数回、お寺を中心に絵画展も開いている。「仏法を少しでも多くの方々に広める手段の一つとして絵画に行きついた。絵とともに仏教を広めていきたい」と「仏教画家」としてこの活動に精力的に取り組んでいる。

作画活動をおして「お坊さんアーティスト」と知り合うことがあるという。佐々木住職の現在の夢は彼らと年に一度の展覧会「僧侶アートプロジェクト」を開催することだと語ってくれた。他宗派の方々も含むアートのつながりが、今後の掲示板活動のさらなる発展になるのだろう。

北海道教区通信員
矢田 真之

東本願寺御用達

日下念珠店

〒600-8174
京都市下京区烏丸通花屋町下ル
電話 (075) 351-6325
フリ-FAX 0120-89-5255
定休日: 日曜日

宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌記念
紅地天人之図総手刺繍御打敷謹納

〒600-8159 京都市下京区烏丸通東本願寺前
TEL フリーダイヤル 0120-07-6391
FAX フリーダイヤル 0120-34-2816
<https://shibata-houten.com/>
(Webカタログ掲載・商品動画配信)

真宗大谷派 東本願寺御用達 京法衣事業協同組合加盟店

株式会社 柴田法衣店

親鸞聖人が開創した「真宗」という「教え」は、聖人の門徒にどのように受け止められてきたか？

大桑 齊 著 四六判並製カバ1装217頁 定価2,200円(税込)

「江戸 真宗門徒の生と死」

親鸞聖人の「二河白道」観

羽田信生 著 定価2,200円(税込)

「内奥への旅」

親鸞聖人の「三願転入」とアメリカ人の真宗理解

羽田信生 著 四六判並製カバ1装200頁 定価2,420円(税込)

「アメリカで真宗を学ぶ」

相承学 編纂 DVD-ROM1枚 PDF 8,639頁収録 定価11,000円(税込)

「真宗相伝叢書」別巻+補巻

「真宗大系」全三十六巻+目録一巻 PDF 17,070頁収録 定価11,000円(税込)

「続真宗大系」全二十巻+別巻四冊 PDF 9,593頁収録 定価22,000円(税込)

「真宗史料集成」全十三巻 真宗史料集成編集委員会編/同朋舎出版/仏教事業部刊 DVD-ROM1枚 PDF 12,662頁収録 定価28,600円(税込)

「仏教美術レプリカカタログ」進呈中!!

方丈堂出版 <https://hojodo.jp/> フリーダイヤル 0120-557-750
京都市伏見区日野不動岡町38-25

親鸞聖人がお念仏の教えを自分のところまで届けてくださった師として、生涯大切に仰がれた方々があります。「七高僧」と呼ばれるインドの龍樹・天親、中国の曇鸞・道綽・善導、日本の源信・源空(法然)。そして「和国の教主」と仰がれた聖徳太子です。親鸞聖人は彼らからどんな「ひかり」を受け取られたのでしょうか。本号からは曇鸞について、3回にわたってたずねてまいります。



ひかりを 伝えたひと

七高僧と聖徳太子

第10回

曇鸞大師

本師曇鸞和尚は

菩提流支の

おしえにて

仙経ながく

やきすてて

浄土にふかく

帰せしめき

〔高僧和讃〕

〔真宗聖典 第二版〕五九二頁

〔現代語訳〕

根本の師である曇鸞大師は菩提流支の教えによつて不老長寿の仙人になる教えをすべて焼きすててしまひ浄土の教えに深く帰依した。

仙人をめざす

曇鸞大師(四七六〜五四二)は、中国の南北朝期に活躍した仏教者です。この曇鸞大師を讃える和讃の第一首として、親鸞聖人はとある逸話を取りあげています。

曇鸞大師は、『大集経』という六十巻もの経典に注釈しようとしています。ところが、途中で病気になってしまいました。曇鸞大師は、この難事業には健康が重要だと痛感します。そこで、高名であった陶弘景という、道教の修行者をたずねて教えを請いました。やがて曇鸞大師は仙経(長寿の仙人になるための教え)を授けられます。そして、意気揚々と陶弘景のもとを辞したのです。

菩提流支の呵責

その帰途に、曇鸞大師は菩提流支に遇いました。菩提流支は天親菩薩の『浄土論』を漢訳した人物でもあります。仙経を授けられた興奮からでしょうか、曇鸞大師は菩提流支に次のような言葉をかけてしまいます。

「仏教も素晴らしい教えですが、長生という点ではこの仙経ほどではないでしょう」

それを聞いた菩提流支は、地に唾を吐いて軽蔑の意を示し、「喝します。」「何てことを言うのか。たとえ僅かばかり命を永らえたとしても、迷いの世界を巡るだけではないか」

そして、菩提流支は、「これによれば迷いを脱することができる」と、曇鸞大師に経典を

授けました。

曇鸞大師は、この言葉にハッとしました。そして、すぐさま、せつかくの仙経をすべて焼きすててしまったと伝えられています。

量ることを超える

曇鸞大師が仙経に期待したのは健康で長生きすることでした。しかし、それは「世間」(迷いの延長)でしかありません。

浄土教の伝統では、菩提流支が授けたのは「仏説観無量寿経」だとされています。「無量寿」とは、「阿弥陀」の意識で、「無量のいのち」という意味です。「無量」は「大量」とは違います。「無量」とは、「量ることを超えた」、「量ることとは関係が無い」ということです。それは、短いものを延ばして長くするという世間の価値観とは異なります。このような仏法の特質を「出世間」といいます。迷いの価値観を超えた出世間の世界があることに曇鸞大師はあらためて気づき、菩提流支が示した浄土の教えに帰依しました。

親鸞聖人は、この場面を極めて重視します。それは、出世間の仏法さえも世間の価値観で量りがちであることを、この逸話が鋭く指摘しているからでしょう。



わけみ あきら
采翠 晃

大谷大学文学部
仏教学科教授
京都教区近江第25西組
長光寺住職



報恩講

お参りしよう!

七昼夜(8日間)にわたって、
御正忌報恩講が勤まります。
今回は報恩講で勤まる
「正信偈」や念仏について
見てみましょう。

真宗門徒にとって「報恩講」は、
最も大切な御仏事です。
真宗本廟(東本願寺)では毎年、
11月21日から28日まで

報恩講の日程

お勤めは連夜、晨朝、日中と時間や内容が異なる3種類があります。連夜、晨朝、日中をひとつのまとまりとして「一昼夜」と呼んでいます。

本山の報恩講では、この一昼夜が期間中7回繰り返し勤められ、あわせて「七昼夜」、計8日間にわたり勤まります。

そして、期間中の一番初めに勤まる一昼夜を「初日」、期間の真ん中を「中日」、最後を「結願」と呼び、「結願」にあたる「結願連夜」「結願晨朝」「結願日中」が最も重いお勤めです。

報恩講の日程

11/21		初連夜
11/22	初晨朝 初日中	連夜
11/23	晨朝 日中	連夜
11/24	晨朝 日中	中連夜
11/25	中晨朝 中日中	連夜
11/26	晨朝 日中	連夜
11/27	晨朝 日中	結願連夜
11/28	結願晨朝 結願日中	七昼夜 8日間

報恩講「連夜」の「正信偈」

本山報恩講の「連夜」では「正信偈」が勤まりますが、普段お勤めする読み方「草四句目下」とは違う節で勤まります。お手次のお寺の報恩講では「真四句目下」が用いられていることもあるのではないのでしょうか。

「句切」は本山と一部の別院での報恩講で、そして「句洵」は本山の初連夜(11/21)と結願連夜(11/27)に勤められます。

真四句目下

在法南歸
世藏無命
自菩不無
在薩可量
王因思壽
佛位議如
所時光來

草四句目下

在法南歸
世藏無命
在薩可量
王因思壽
佛位議如
所時光來

句切・句洵

在法南歸
世藏無命
在薩可量
王因思壽
佛位議如
所時光來

報恩講の「念仏」 「和讃」

報恩講で勤まる「念仏」「和讃」は普段のお勤めより重い形となっています。

みなさんが勤行本などでよく見るのは三洵といい、お内仏などでも勤められることがあるのではないのでしょうか。

またお手次のお寺の報恩講などでは五洵で勤められていることも多いでしょう。

本山の報恩講では、この五洵よりも多く十洵と十二洵が勤まります。一番洵の数が多くなる十二洵は結願でのみ勤まります。

三洵

南無阿彌陀佛

五洵

南無阿彌陀佛

十洵

南無阿彌陀佛

十二洵

南無阿彌陀佛

出典:『真宗大谷派声明集』、『大谷派声明集 下』



普段のお勤めと異なる声明にであう、
御正忌報恩講に
ぜひ一度
お参りしてみませんか?

お一人からでもお申込みいただけます!
報恩講のご参拝に際して、
事前に申し込みをいただく
「記念品」をお渡しいたします。

東本願寺
X
SOU・SOU
巾着ポーチ

申込期間 11月15日(金) 午後5時まで
申込方法 ① 申込フォーム ② 電話 ③ FAX



お問い合わせ先

本廟部 参拝接待所 団体参拝担当
〒600-8505 京都府京都市下京区烏丸通七条上る常葉町754番地
電話:075-371-9210(午前9時~午後5時) FAX:075-371-9204
メールアドレス:honbyo@higashihonganji.or.jp

報恩講特設サイト開設!

報恩講特設サイトでは、詳しい情報を見ることができます。報恩講のお勤めの特徴について紹介した動画も公開予定。ぜひご覧ください。



アクセスマップ



山陽教区「非核非戦法会兼原爆死没者追弔会」

—「非」の意味を考える—

7月6日、広島別院明信院にて「非核非戦法会兼原爆死没者追弔会」が勤修された。別院では毎年、8月6日の「原爆の日」の1ヶ月前に法会が開かれている。勤行の後、玉光順正氏(山陽教区光明寺)より法話があった。玉光氏は、「反核反戦」ではなく「非核非戦」という言葉を用いるのには、親鸞聖人が流罪を縁に自身を「非僧非俗(僧に非ず俗に非ず)」と表明したことの影響があると述べた。そして、この表明を「浄土を国籍として日本に生きる人間の誕生」と受けとめ、浄土を国籍とすることは立場が明確になり、「世の中のあらゆる問題に浄らかさを考えながら対応していく」ことであると語った。

「親鸞聖人が言われる「浄土」、「浄土真宗」は単なる死後の世界や一宗派の名ではなく私たちの生き方の問題を明らかにしているのではないかと問い、「親鸞聖人の言葉を自分が生きる中でどう表現し、お互いに交換し合うのがか聞法生活の意味ではないか」と投げ



法要の様子

かけた。原爆が投下されてから79年、「非核非戦」や「浄土真宗」という言葉の意味を先達がどう受け取ってきたのかを学び、自分自身で問い考えていくことが願われている。80年目を前に、私たち人間の課題と道が知らされた法会となった。(山陽教区通信員 青山祐一)

九州教区「非核非戦法要 ー共に生きよー」

—戦争を語り継ぐ—

8月9日、長崎教会にて「非核非戦法要」が勤修された。猛暑の中、多くの方が参集し、外に設営されたテントで汗を滲ませながら聴聞される方も見受けられた。まず、境内にある「非核非戦」の碑の前で勤行の後、本堂で開会式が行われた。信國眞一九州教務所長の挨拶後、読経があり、その後、森下理子さん(長崎教会門徒)による感話があった。87歳になる森下さんは原爆の語り部の高齢化を憂い、自身の戦中から戦後の生活、また、現代の戦争に対する心痛の思いを語られた。森下さんは語

り継ぐことの大切さを述べた後、「人間に生まれて本当に良かったと思える世界が広がることを願ってここに立たせていただきました」と締めくくられた。その後、武宮智水氏(九州教区正蓮寺)の法話があり、非核非戦法要勤修の歩みや、自身のお寺と戦争のご縁について語られ、「非核非戦を自身の問題としていただかなければならない」と述べられた。

来年迎える原爆投下80年に向け、身の引き締まる法要であった。(九州教区通信員 奥村誓至)



感話(森下理子さん)

お東さんガイド

お知らせ

第63回 東大谷万灯会開催

— 大小の提灯が参拝者の足下照らす —

8月14日から16日の3日間、大谷祖廟(京都市東山区)において「東大谷万灯会」が開催された。

期間中午後7時より勤まる「お盆法要」では、松井憲一氏(元大谷大学非常勤講師)による法話が行われたほか、子ども向けに紙芝居の上演を行った。また、御廟に供えられた仏花を用いて「灯」の字が書かれ、竹を加工し中にろうそくを灯す火文字では、能登半島地震の復興を願い、「のとなぐ」の言葉が灯された。3日間をとおし多くの参拝者が訪れ、亡き方を縁に手を合わせる姿が見られた。

また、8月1日から5日には「暁天講座」



が開催され、5日間で約430人が聴聞し、本堂の広縁から境内に設けられた椅子席、また、サテライト会場として設置した賀慶殿まで大勢の聴聞者で埋め尽くされた。なお、各日の法話は、しんらん交流館のYouTubeチャンネルで公開している。

福井教区 参議会議員補欠選挙

辻崎保徳参議会議員の辞職に伴う補欠選挙の結果、伊藤辰夫氏(福井教区第1組教重寺門徒)が当選。

新僧侶の誕生

— 真夏の得度式執行 —

8月4日と7日、真宗本廟(東本願寺)にて得度式が執り行われ、両日合わせて160人の新しい僧侶が誕生した。大谷派では満9歳から得度式を受式できることから、夏休みに合わせ多くの子もたちが儀式に臨んだ。

受式者は、御影堂にて大谷暢裕門首から「剃刀の儀」を受け、仏弟子としての法名を授かった。7日に受式された泉阿依子さん(9歳)は「練習どおりにお勤めできるか心配でした。正座で足がしびれたけれど、最後までしっかりできてほっとした」と感想を述べた。



勤行中の受式者(8月7日)

夏の真宗本廟に子どもたちが集う

— 各奉仕団・大会開催 —

7月25日から26日と28日から30日の2回、5年ぶりに「真宗本廟子ども奉仕団」が開催された。また、8月1日から4日には、「第34回同朋ジュニア大会」、8月7日から9日にかけては「真宗本廟中学生・高校生奉仕団」が開かれ、たくさん子どもたちが集い、さまざまなお話やレクリエーションを楽しんだ。暑さに負けない元気な声が真宗本廟に響いた。



「真宗本廟子ども奉仕団」レクリエーションの様子(7月29日)

読者のお便利

「違いを認める」ということ

栃木県芳賀郡
石川 志保(34歳)

『同朋新聞』2024年7月号「人間といういのちの相」で書かれていた「違いを認める」ということは、まさに今私自身考えていることで衝撃を受けました。人と違うことを気にし、他人と比較していることに気づき悩む毎日。でもいくつか本を読む中で、人はみな違い、他人と比較することや同じであること

に重要性を感じるこそ間違いだと気づきました。

通知表は子どもにとって他己分析してもらおう大きなチャンスなのではないかと思えます。しかし、今思うと当時の通知表の評価の仕方に疑問を感じます。完全に無くすのではなく、数字での評価は無くし、どのよう

なことが評価され、またどう改善するとより良くなるかなど言葉でつくる通知表があれば良いと感じます。

今私自身が考え悩んでいる「違いを認めること、その違いと自分自身を受け入れること」に関する文章を読むことができ有意義な時間になりました。

お便り募集 『同朋新聞』の感想をはじめ、日々の思いなどをお寄せください。

宛先 Eメール/shuppan@higashihonganjii.or.jp FAX/075-371-9211 〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上る 東本願寺出版『同朋新聞編集係』

住所・氏名・年齢・電話番号を明記してお送りください。紙幅の都合上、掲載時は添削・抜粋させていただく場合があります。

ほくほくフィナンシャルグループ
Hokuhoku Financial Group

相続手続きのお困りやお悩み

相続人の皆さまに代わって、
〈ほくぎん〉が相続手続きを代行します。

どんな書類を揃えるの？
何から始めればいいのか？
手続きに期限はあるの？

相続人が遠方に住んでいて
電話や郵送だけでも大変
平日は仕事があるし……

税金がかかるのか
不安……、だれかの
アドバイスがほしい

※ご相談は無料ですが、本商品をご利用いただく際に手数料等が必要となります。
※一部業務にあたっては必要に応じて外部専門家を紹介する場合がございます。

ほくほく 遺産整理業務

北陸銀行

【お問い合わせ先】北陸銀行リテール推進部 信託チーム
TEL.076-423-7111(受付時間:平日9:00~17:00)
お近くの支店でもご相談をお受けします

ご案内

真宗本廟

開門・閉門時間/3月~10月:5時50分~17時30分
11月~2月:6時20分~16時30分

晨朝(おあさじ)

【場所】阿弥陀堂及び御影堂
【時間】毎日7時~

晨朝法話

【場所】御影堂
【時間】毎日7時30分頃~

真宗本廟法話

【場所】視聴覚ホール・御影堂・参拝接待所仏間
【時間】通常 10時10分~/13時10分~
速夜日(12・27日)13時10分~
御命日(28日) 9時30分~
※その他、時間・会場を変更する場合があります。

参拝接待所ギャラリー

【時間】9時~16時
涉成園展 開催中(~10月31日)

詳しくは → [東本願寺](#) [検索](#)



しんらん交流館

真宗本廟(東本願寺)へご参拝の際には、ぜひお立ち寄りください。
開館時間/9時~17時 休館日/毎週火曜日

10月の定例法話

【時間】毎日14時~(12日は10時~、27日は休会) ※休館日は休会。その他、都合により休会する場合があります。

10月の東本願寺日曜講演

【時間】9時30分~11時
【講師】10月6日 讓 西賢氏(大垣教区慶園寺住職・岐阜聖徳学園大学名誉教授)
10月20日 藤原 智氏(教学研究所研究員)
10月27日 脇坂 真弥氏(大谷大学教授)

交流ギャラリー

「東本願寺の今昔」展 開催中

詳しくは → [浄土真宗ドットインフォ](#) [検索](#)



2024年

真宗本廟奉仕に参加してみませんか

真宗本廟奉仕を機にぜひ帰敬式を受式ください

真宗本廟報恩講奉仕団

真宗本廟報恩講の法要参拝を日程の中心とした奉仕団です。

2泊3日 11月20日(水)~22日(金)
満館 11月24日(日)~26日(火)
満館 11月27日(水)~29日(金)

1泊2日 11月20日(水)~21日(木)
満館 11月24日(日)~25日(月)
満館 11月27日(水)~28日(木)

真宗本廟お煤払い奉仕団

歳末、両堂の1年分の埃を竹の棒と大きな団扇を使って外へ扇ぎだし、新しい年をお迎える準備を行う「お煤払い」に参加する奉仕団です。

2泊3日 12月19日(木)~21日(土) 1泊2日 12月19日(木)~20日(金)

【参加費】(2泊3日)18,000円、米2kg(1升4合)または米代1,300円
(1泊2日)13,000円、米1.2kg(8合)または米代800円
※上記は大人(15歳以上)の場合です。

※申込締切は各入館日の40日前です。

お申し込み・お問い合わせ 同朋会館・研修部
TEL:075-371-9185



入館中はお仲間や他団体の方々とカフェ(無料)でほっこり

救援金のお願い

宗派では、このたびの「令和6年能登半島地震」に対する救援金を勧募しています。みなさまからの温かいご支援をお願い申し上げます。

救援金口座

郵便振替口座番号 00920-3-203053

加入者名

真宗大谷派

※通信欄に「令和6年能登半島地震」とご記載ください。

救援金総額

238,864,920円
(2024年9月4日現在)

今月号の『同朋新聞』を読んで、クロスワードパズルを完成させよう!

プレゼント付

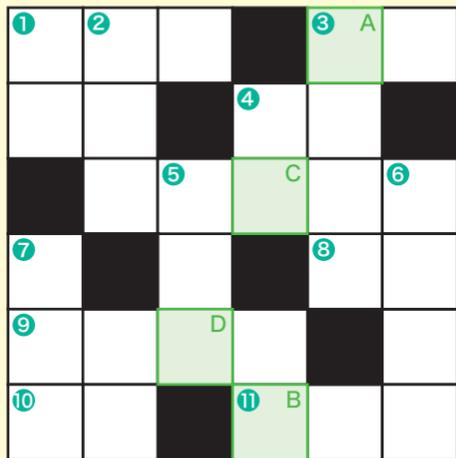
タテのカギ

- 報恩講の「〇〇夜」では「正信偈」が動きますが、普段お勤めする読み方「草四句目下」とは違う節で動きます。(6面)
- 「ご案内」参拝接待所ギャラリーにて涉せ〇〇展が開催中です。(8面)
- 「現在を生きる」今月のタイトルは「〇〇〇〇しは偈ぶ場所から」です。(4面)
- 「人間といういのちの相」今月のタイトルは「〇〇〇」を堪能する」です。(2・3面)
- 親鸞聖人がお念仏の教えを自分の〇〇〇まで届けてくださった師として、生涯大切仰がれた方々がいいます。(5面)
- 「ひかりを伝えたい」と本号からは〇〇〇〇について、3回にわたってたずねてまいります。(5面)
- 真宗本廟お煤払い奉仕団とは、歳末、両堂の1年分の埃を竹の棒と〇〇〇な団扇を使って外へ扇ぎだし、新しい年をお迎える準備を行う「お煤払い」に参加する奉仕団です。(8面)

ヨコのカギ

- 真宗大谷派学校連合会加盟校である小松大谷高校野球部が第106回全国高校野球選手権〇〇〇いに出場しました。(1面)
- 「今月の法話 如是我聞」今月のタイトルは「〇〇目が覚めたらいのちがあった」です。(1面)
- 7月25日から26日と28日から30日の2回、5年ぶりに「真宗本廟子ども奉仕〇〇」が開催されました。(7面)
- 「縁一お寺の掲示板」今月の言葉は「世の中で一番〇〇〇〇いこととは私の正義である」です。(4面)
- 8月9日、長さ〇〇よう会にて「非核非戦法要」が勤修されました。(7面)
- 報恩講のご参拝に際して、事前に申し込みをいただくと「〇〇〇品」をお渡しいたします。(6面)

「タテのカギ」「ヨコのカギ」それぞれの設問に答え、クロスワードパズルを完成させましょう! 10月号の『同朋新聞』を読むと、ほとんどの答えがわかります!!



8月号のクロスワードパズルの答えは、

そ
う
め
ん

答え A B C D

※答えはすべて「ひらがな」でお答えください。

読者のこえ

7月号を読んで

◆ハワイや南米、北米でも日本の盆踊りの文化が広がっていることを知り面白いと思いました。(岐阜県10代)

◆「ひかりを伝えたい」小さい時から意味もわからずお勤めしていた正信偈の意味がわかりやすく書かれていて、少しだけ身近なものになりました。(滋賀県30代)

チャレンジ! 正解者の中から抽選で5名様に「東本願寺出版オリジナル図書カード1,000円分」をプレゼントします!

郵便はがきまたはメールにて、①「クロスワードパズルの答え」②「郵便番号」・「住所」・「氏名」・「年齢」・「電話番号」と③『同朋新聞』の感想や紙面に関する要望を添えて、右記までご応募ください。今月号の締め切りは11月10日(日)(当日消印有効)です。

宛先 〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上る 東本願寺出版 「クロスワードパズル係」まで

メールでも応募できます!

はがきと同様に必ず左記①②③を記入し、「件名」に「同朋新聞10月号クロスワード応募」と入力の上higashihonganjishuppan@gmail.comへお送りください。

応募はコチラ



〈ご注意〉 ◆当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。◆個人情報プレゼントの発送および紙面づくりの参考に使用し、それ以外の目的には使用しません。◆感想は「読者のお便り」や「読者のこえ」に掲載する場合があります。◆本クロスワードパズルは、独自のルールに基づいて作成しております。

東本願寺出版おすすめ本

ご注文・お問い合わせは



TEL 075-371-9189

FAX 075-371-9211

詳しい書籍情報は

[東本願寺出版](#) [検索](#)

HPからもご注文ができます



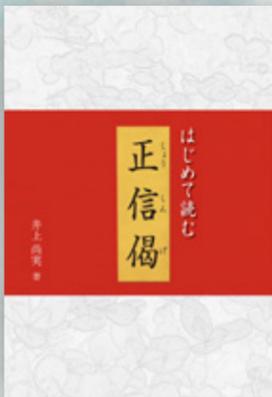
重版にあたり「真宗聖典」からの引用を第二版の表記に改めました

重版

「帰命無量寿如来」で始まる、浄土真宗の門徒にとってなじみ深い「正信偈」に込められた親鸞聖人のお心を学び、味わうための入門書。普段のお勤めでは漢文をそのまま音読していますが、言葉に込められた願いをあらためて確かめることができる一冊です。

はじめて読む正信偈

井上 尚実 著
B6判 226頁/定価:1,210円(税込)



好評発売中



真宗聖典

【第二版】

大判/4,950円(税込)

小判/4,400円(税込)

お釈迦様の生涯と思想をたどる

重版

仏教成立の時代背景、お釈迦さまの生涯をとおり、仏教の基本的な思想をやさしい言葉で解説。仏教をはじめて学ぶ方にも最適な一冊。

はじめての仏教学

—ゴータマが仏陀になった—
宮下 晴輝 著 新書判 224頁/定価:858円(税込)

